

平成 30 年度富津市民委員会
報 告 書

平成 31 年 3 月
富 津 市

目 次

1	平成 30 年度富津市民委員会の概要.....	1
2	討議結果の概要.....	4
	基本目標 1 自分のくらす地域を好きになる.....	4
	基本目標 2 くらしやすく、移住しやすい環境づくり.....	6
	基本目標 3 子どもの笑顔があふれるまちへ.....	8
	基本目標 4 市の産業、仕事を創る.....	10
3	平成 30 年度富津市民委員会討議結果（要旨）	
	平成 30 年度第 1 回富津市民委員会 グループ 1 討議結果（要旨）.....	15
	平成 30 年度第 1 回富津市民委員会 グループ 2 討議結果（要旨）.....	23
	平成 30 年度第 2 回富津市民委員会 グループ 1 討議結果（要旨）.....	31
	平成 30 年度第 2 回富津市民委員会 グループ 2 討議結果（要旨）.....	38
参考資料		
	委員名簿・コーディネーター名簿.....	45
	平成 30 年度 富津市民委員会実施要領.....	46

1 平成 30 年度富津市民委員会の概要

(1) 趣旨

2020 年度以降の富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「次期総合戦略」という。）を策定するに当たり、次期総合戦略も引き続き、市民とともに創り上げ、実行していくことから、幅広い市民からの意見を反映させるため、富津市民委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(2) 討議事項

次期総合戦略策定に向けて、現在の富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「現総合戦略」という。）に定めている次の事項について、討議する。

- 各基本目標の数値目標
- 基本的な施策の方向
- 課題
- 地域・民間ができること
- 市民ができること

(3) 組織

委員会は、富津市の住民基本台帳登載者のうち 15 歳以上のものから、若年層に傾斜配分し、無作為抽出により選出されたもので、かつ、委員会への参加希望をした者の中から抽選により選出された富津市民委員会委員（以下「委員」という。）をもって組織する。なお、委員の任期は、平成 31 年 3 月 31 日までとする。

(4) 役割

○委員

現総合戦略の進捗状況を踏まえ、(2)に掲げる事項について討議する。

○コーディネーター（討議の進行役：富津市創生会議委員）

委員に対し、論点を提示するなど、討議の円滑な進行を行う。

○事務局（委員会全体の運営：企画課）

委員会全体の運営を担うとともに、委員会での討議結果を報告書として取りまとめ、富津市創生会議へ報告する。

(5) 開催日

○第 1 回富津市民委員会 平成 30 年 11 月 25 日（日）

○第 2 回富津市民委員会 平成 31 年 2 月 17 日（日）

(6) 討議の流れ

委員を2つのグループに分け、コーディネーターからの論点の提示をもとに各グループで現総合戦略の基本目標ごとに討議を行う。

	グループ1	グループ2
第1回	基本目標1 自分のくらす地域を好きになる	基本目標2 くらしやすく、移住しやすい環境づくり
第2回	基本目標3 子どもの笑顔があふれるまちへ	基本目標4 市の産業、仕事を創る

2 討議結果の概要

基本目標ごとの概要は以下のとおり（詳細は討議結果（要旨）を参照。）。

基本目標1 自分のくらす地域を好きになる

（1）基本的な施策の方向① 地域への愛着が育つ

○基本的な施策の方向、課題（市への意見を含む）

市内外に市の情報が知られていないことから、観光ガイドマップ「フツアー」やSNSの活用等、市からの情報発信の強化を求める意見が多かったほか、公共交通や子ども医療費助成制度等、他市との比較で不利になっている等の意見があった。

○地域・民間ができること

観光協会等を通じて「フツアー」等の発信を強化する意見があった。

○市民ができること

「フツアー」の紹介やSNSでの投稿等、市民からの情報発信について提案があったほか、市外の人との交流や市外への転出を経て、富津市の魅力を再発見した等の意見があった。

（2）基本的な施策の方向② 自慢できる地域力の構築

○基本的な施策の方向、課題（市への意見を含む）

子供世代への地域活動の継承に不安があるという意見のほか、天羽地区は交通の便が悪く、住み続けることに不安がある等の意見があった。

○地域・民間ができること

観光客へのPRに「フツアー」等の配布を求める意見があった。

○市民ができること

該当する意見無し。

（3）基本的な施策の方向③ 高齢者や障がい者が地域で元気に暮らす

○基本的な施策の方向、課題（市への意見を含む）

独居、高齢夫婦世帯は介護や買い物に不安があるのではないかとの意見のほか、障がい者の活動について、市民に周知されていない等の意見があった。

○地域・民間ができること

買い物難民に対する他市の取組として、個別訪問やお買い物バスが紹介された。

○市民ができること

該当する意見無し。

(4) 基本的な施策の方向④ 地域ぐるみの防災、防犯体制の促進

○基本的な施策の方向、課題（市への意見を含む）

消火活動について消防団から声掛けを行ってほしいとの意見のほか、避難所における備蓄食料や布団の不備についての意見等があった。

○地域・民間ができること

防災への個人の意識を高めることについて、地域での防災訓練の実施や、消防団から広報を行う、消防団員とコミュニケーションをとる等の意見があった。

○市民ができること

避難用の備蓄は自分で用意する等、自分の身は自分で守るという意識を持つべきという意見が多かった。

○数値目標

現総合戦略を策定した3年前の状況から数値が上がっていないため、次期総合戦略では目標値を下げた方がよいとの意見が多かった。

富津市への愛着度	
現総合戦略目標数値	70% (H31)
H27 市民意識調査結果	54% (H27)
H30 市民アンケート調査結果	53% (H30)

※上記調査において富津市に誇りや愛着を「はっきりと持っている」「漠然と持っている」と回答した人の合計

基本目標2 くらしやすく、移住しやすい環境づくり

(1) 基本的な施策の方向① 交通利便性を高める

○基本的な施策の方向、課題（市への意見を含む）

本数の少なさ、乗り継ぎの待ち時間の長さ等から、JR、バスの利用が不便であるとの意見が多かったほか、市民が使わなければ不便さは改善されない等の意見もあった。

○地域・民間ができること

ゴルフ場や福祉施設等、民間企業の所有するバスを活用できないかとの提案があった。

○市民ができること

高齢者等と乗合運転のボランティアをマッチングする仕組みがあればいいのではないかという提案があった。

(2) 基本的な施策の方向② 住環境の整備

○基本的な施策の方向、課題（市への意見を含む）

公園について整備や活用がされていないという意見があった一方で、無理に使う必要はないという意見もあったほか、近年買い物が不便になり、住環境が悪くなったと感じる等の意見があった。

○地域・民間ができること

該当する意見無し。

○市民ができること

該当する意見無し。

(3) 基本的な施策の方向③ 移住者受け入れの環境整備

○基本的な施策の方向、課題（市への意見を含む）

地域と移住者のコミュニケーションの要否に関する意見が多くあったほか、市の情報発信に係る外国語対応や、情報発信手段の工夫が必要である等の意見があった。

○地域・民間ができること

移住者への地域活動の情報提供や交流の度合についての意見等のほか、移住者の増加している金谷地区における観光協会と商工会の連携した取組が紹介された。

○市民ができること

金谷のカナヤベースでの商品販売の取組が紹介された。

(4) 基本的な施策の方向④ 生活環境の保全

○基本的な施策の方向、課題（市への意見を含む）

有害鳥獣は市境を越えて移動するため、県や近隣市と協力して駆除する必要があるという意見が多かったほか、市民のごみの分別マナーについての意見等があった。

○地域・民間ができること

ごみ出しのマナーについて、収集場所の管理に改善の余地があるという意見があった。

○市民ができること

家の前にポイ捨てされたごみについては、公道でも掃除したとの体験が紹介された。

○数値目標

現総合戦略を策定した3年前の状況から減少しているものの、次期総合戦略でも現総合戦略の目標値である85%を目指す方がよいとの意見が多かった一方で、現実的には80%がいいという意見もあった。

「これからも富津市に住み続けたい」の割合	
現総合戦略目標数値	85% (H31)
H27 市民意識調査結果	77% (H27)
H30 市民アンケート調査結果	74% (H30)

※上記調査においてこれからも富津市に「ずっと住み続けたい」「当分は住み続けたい」と回答した人の合計

基本目標3 子どもの笑顔があふれるまちへ

(1) 基本的な施策の方向① 出会いの場を創出し、結婚の希望をかなえる

○基本的な施策の方向、課題（市への意見を含む）

富津市には会社や婚活パーティー等の出会いの場が少ないと感じている意見が多かった一方で、婚活パーティーに対するイメージが良くないと感じる意見も多かった。

○地域・民間ができること

男性には青年会や消防団等の地域の集まりがあるが、女性にもあればいいという意見があった。

○市民ができること

スポーツ等の趣味の集まりを企画する、出会いの場に出かけるよう声掛けを行うという意見のほか、富津市の人と結婚することのメリットをPRする等の意見があった。

(2) 基本的な施策の方向② 出産、子育てしやすい環境の整備

○基本的な施策の方向、課題（市への意見を含む）

見守りボランティアや声掛け等の地域活動に関する意見のほか、産婦人科、小児科の不足や子育ての相談窓口の周知不足等についての意見が多かった。

○地域・民間ができること

該当する意見無し。

○市民ができること

子育ての情報を市民間で共有するという提案のほか、子供への声掛けについての意見等があった。

(3) 基本的な施策の方向③ のびのび学ぶ教育環境の整備

○基本的な施策の方向、課題（市への意見を含む）

地域で学校の情報を共有して関心を高めることが重要であるという意見のほか、少子化により子供会が衰退している等の意見があった。

○地域・民間ができること

お祭りのお囃子や手話等、地域で子供の教育に関わっている体験の紹介があった。

○市民ができること

学校の情報についてはP T Aに直接聞いているという意見があった。

○数値目標

「富津市は子育てしにくい」と思う割合が減少していることは評価できる。討議で出た課題解決に向けた取組を実行していけば、現総合戦略よりも高い目標を目指すことも考えられる等の意見があった。

子育てしやすいと感じる世帯の割合			
現総合戦略目標数値	50% (H31)	参考 子育てしにくいと思う割合	
H27 市民意識調査結果	26% (H27)		33.6% (H27)
H30 市民アンケート調査結果	26% (H30)		23.5% (H30)

※上記調査において富津市は子育てしにくいところだと「思わない」と回答した人の合計

基本目標 4 市の産業、仕事を創る

(1) 基本的な施策の方向① 雇用の創出

○基本的な施策の方向、課題（市への意見を含む）

業種や就労環境と働き手の希望にミスマッチがあり、雇用の場があっても人が集まらないという意見のほか、女性の働ける場が不足している等の意見があった。

○地域・民間ができること

出産した人等を対象とする時短勤務の制度があるが、制度を利用しない人にもメリットのある仕組みを考えることについての提案のほか、親が働く間の子供たちの預かりを地域で考える必要がある等の意見があった。

○市民ができること

該当する意見無し。

(2) 基本的な施策の方向② 地場産業の振興

○基本的な施策の方向、課題（市への意見を含む）

農業について特産物の販売所、耕作放棄地の活用、農業体験等に関する意見が多かったほか、漁業の後継者が不足している等の意見があった。

○地域・民間ができること

空き校舎を活用し、地域の人が持つ海苔づくり等の技術を学ぶ専門学校をつくってはどうかという提案があった。

○市民ができること

山間地の水エネルギーを利用した農業や加工品等の6次産業化により、富津市を活性化したいという意見があった。

(3) 基本的な施策の方向③ 観光の振興

○基本的な施策の方向、課題（市への意見を含む）

高岩山や鋸山に対して観光地としての整備が不足しているという意見のほか、県民マラソンの機会を利用して富津市のPRにつなげてはどうか等の意見があった。

○地域・民間ができること

他の地域で実施しているイベントをアレンジして実施できないかという意見のほか、地域に根付いた団体間で連携して事業を実施してはどうか等の意見があった。

○市民ができること

空き家を貸別荘に改装し、もっと活用してはどうかという意見があった。

○数値目標

今回のアンケート結果を踏まえ、現総合戦略と同じでよいという意見、18%位と考える意見、また、希望をもって20%と考える等の意見があった。

働く場所の創出への満足度	
現総合戦略目標数値	25% (H31)
H27 市民意識調査結果	14% (H27)
H30 市民アンケート調査結果	16% (H30)

※上記調査において「働く場所の創出」への満足度が「満足」「やや満足」と回答した人の合計

3 平成 30 年度富津市民委員会討議結果（要旨）

平成 30 年度第 1 回富津市民委員会	グループ 1 討議結果（要旨）15
平成 30 年度第 1 回富津市民委員会	グループ 2 討議結果（要旨）23
平成 30 年度第 2 回富津市民委員会	グループ 1 討議結果（要旨）31
平成 30 年度第 2 回富津市民委員会	グループ 2 討議結果（要旨）38

平成 30 年度第 1 回富津市民委員会 グループ 1 討議結果（要旨）

1 開催日時等

開催日時	平成 30 年 11 月 25 日（日） 午後 1 時 30 分～ 4 時 10 分
場 所	富津市役所本庁舎 5 階 503 会議室
討議事項	富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標 1
出席者	富津市民委員会委員 14 名（コーディネーター）オノミチ三由紀（事務局）坂本企画課長、山田主任主事
傍聴人	4 人

2 討議事項

総合戦略の基本目標 1（自分のくらす地域を好きになる）に記載している次の事項について、討議を実施。

- （1） 基本的な施策の方向
- （2） 課題
- （3） 地域・民間ができること
- （4） 市民ができること
- （5） 数値目標

3 討議内容（要旨）

（1） 基本的な施策の方向① 地域への愛着が育つ

基本的な施策の方向、課題（市への意見を含む）	
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県外の友人が、「まさか富津に古墳がたくさんあるとは思わなかった。」と言っていた。知られていないことが残念だった。 ・ フツアーのつくりは良くないが、誰も知らないようなのもっと配ればよい。フツアーなどを配ることで、皆さんに富津市を知ってもらうことになると思う。 ・ 学校の友達からは、「富津市は山しかない、何も無いところ。」と言われる。インスタグラムやツイッターもあるが、君津に「きみつネット」があるように、富津も「ふつつネット」を作って小さなことでも発信していけばよいと思う。 ・ 富津を知ってもらうにはフツアーは良い冊子なので、活用を工夫して欲しい。 ・ 市内のイベントの案内は配信メールでは来ない。前もって知らせたい。 ・ 富津近辺には情報は多いが、天羽は情報が少ない。もっと大佐和、天羽にも情報を流して欲しい。 ・ 情報発信について、高校生は、フェイスブックはあまりやっ

	<p>いので、インスタグラム、ツイッターを活用すれば、高校生は市の情報を知ることができるのではないかと。私自身、投稿はやっていない。マザー牧場にイルミネーションなどがあると行くと思うが、そういうインスタスポットがあまり無いのでやっていない。若い人が来るスポットなどが欲しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木更津ではインスタグラムをやっていると思うが、富津も観光客にもっとやってもらったら良いと思う。写真を載せるのが良いと思う。市外の方も見られるようになればよい。 ・平成 27 年度からマイナスになっていることはないと思うが、平成 27 年度の市民委員会会議も、「外部の方を入れてやったのは珍しい。」と言っていたが、そのことを市民が知らなかったことは残念だった。やはり情報発信だと思った。 ・フツアーもあるが、作りっぱなしの状況。愛着を持つための PR ができていない状態ではないか。 ・湊で自慢できることは無い。富津地区にはあるが、富津市の一部だけでやろうというような感じがする。富津、大佐和、天羽の 3 地区が一枚岩になって富津市を盛り上げ、PR していかないと、人口の流出は止まらない。 ・愛着というと、富津は良いところだとは思いますが、県外の方は木更津は知っているけど、富津市は知らないように感じる。
公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ・JRの単線について、学生には待ち時間が多く大変。単線は不便。前より酷いと思う。交通の便がどんどん悪くなっている。 ・上総湊駅はバスもタクシーも無いので電車で帰ってきたら歩いて家に帰らなければならない。 ・毎朝息子を送迎しているが、青堀駅は朝の時間帯で電車の発車近くになると送迎が多く混雑するので、そのような時間帯だけでもバス料金を 100 円にするなどのサービスがあれば住み良いまちになるのではないかと。 ・就職場所としては富津も可能性があると思うが、市外が多いと思う。君津までは複線だが、富津以南は単線。少し風が吹くと止まってしまう。また、駅に駐車場も無い。そのような不便さがあるので、富津が嫌いな訳では無いと思うが、富津を出て就職先に近いところに移ってしまう。
子ども医療費助成制度	<ul style="list-style-type: none"> ・少年野球連盟に携わっているが、子供が少ない。君津と合併しないと野球もできないくらい減っているような状況。人が温かいとは分かるが、現実問題として、子供が少ない状況を伝えたかった。私自身、君津から富津に転入したが、君津は子ども医療費が 0 円なのに、富津は 200 円。温かいということも大事だが、現実的、金銭的

	<p>にもこの差には何かためらいはある。生きていかなければならないので。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・君津市などとは違い、富津市は子ども医療費が200円かかってしまいが、その200円を払っているお母さんが、「払っていても富津が好きだ、富津のためになろう。」と思えるようになることが愛着にも繋がるし、一番大事ではないかと思う。 ・君津から富津に来て子ども医療費が200円かかるなど小さなこともあり、君津、木更津、市原への転出が多くなっているのが現状だと思う。
若者が遊ぶ場所	<ul style="list-style-type: none"> ・若い子の遊ぶ場所が全然無い。 ・横浜の学校の友達は、「インスタ映えするレストランしか行かない。」と言っている。 ・富津市には流行の場所が全く無い。市原の高校に通う妹も遊ぶ場所は、「ららぽーと船橋」や千葉市になり、富津では全く遊ばない。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が生まれたまちだから、必然的に愛着が湧くが、理由は無い。どうして愛着が湧いているかを掘り下げていければ発信できるのではないか。 ・人の温かさは見えないのでどのように伝えていくか、愛着が湧くためにどのようなことをすればよいかを議論した方が意見は出るのではないか。 ・討議が愛着を持ちなさいというところから入ってしまったが、どこで愛着を持てるかなどが重要なのではないか。
地域・民間ができること	
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・フツアーなどは観光協会などを通じてもっともっと外に発信していけばよいのではないか。
市民ができること	
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・以前、子育て中のお母さん達に、富津の良いところを聴いたところ、意外と意見が出た。少しずつでもいいから発信できれば良いと思った。 ・ツーリング仲間にも、もっと富津市を知ってもらうために、フツアーを配りたい。 ・今までは、情報発信はお金をかけなければならなかったが、SNSでお金をかけないで、個人として発信できるようになっている。何気ない投稿などがヒットすることもある。最近気づいたが、竹岡・金谷の夕方の景色がとてもきれいだと思った。夕日、海、富士山が見られる場所はそうそうない。何気ない発見がよいのではないか。若者のインスタ発信にもつながる。インスタグラムに発信された場所に行くのもよいが、自分が発信すれば自慢にもなると思う。

魅力再発見	<ul style="list-style-type: none"> ・市外の友達に富津を案内した際、「富津は海もあって、自然もあって、食べ物もおいしいので良いところだ。」と言われた。地元にとっぷり住んでしまうと良さが分からない。外の人から言われたことが魅力であると思った。私自身、初めて魅力を再発見した。自分の住んでいるところをもっともっと愛さなければならぬと思った。胸が熱くなる思いだった。 ・富津がそんなに好きではなかったもので、一度出てみたが、周りの子からの話を聞くと、自分の育った場所は良いところだと気付いた。
その他（体験談等）	
<ul style="list-style-type: none"> ・富津に来て10年になる。誰も知らないところからスタートしたが、富津市に住もうと思った理由は、人が温かかったからである。 ・人口が減る原因を明確にしてみてもどうか。人口減少の1つの要因として若い女性の転出が目立っているとのことだが、そもそも若い女性を見かけない。高齢者ばかり。 ・富津市への愛着は、生まれ育ったまちだから当然あるが、生活はしづらいまちであると思う。 ・地域でできること、地域の魅力をつくるということについて、行政からの指導などもないので分からない。 ・現状としては、魅力の無い市ではないか。自慢する物は無い。君津のハート型の「濃溝の滝」は若者に魅力だ。富津公園があるが、「それがどうした。」という感じだ。 ・委員の皆さんの意見を大きくまとめると住みづらいまちということになってしまうのではないか。小さな事だが、子ども医療費の200円、他市と比べて水道代が高いなど。良いところ出して下さいと言われても分からない。 ・元から住んでいるから愛着がある一方で、交通の便、医療費、市へ様々な相談をしたら反対された経験などのマイナス面もあるので、愛着を持てるかどうかは天秤だと思う。 ・平成27年度に現在の総合戦略策定のための市民委員会に参加したが、平成27年度からこの3年で何か変わったと感ずることとして、市民アンケート速報版から愛着を持っている人が減っており、肯定的が減って、否定的が増えていることから、愛着をもった若者が減っているのではないかと思った。当時の市民委員会では富津に住んでいる人からは住みづらいという声は少なかったと思った。平成27年度から目に見えての変化は感じられないが、ふるさと納税で富津市を知った方もいる。 ・新橋に通っている息子は、「富津はリゾート地だ。」と言っており、「富津はやはり良いところだ。」と言っている。 ・昔も遊ぶ場所は市外だった。 	

(2) 基本的な施策の方向② 自慢できる地域力の構築

基本的な施策の方向、課題（市への意見を含む）	
子育て環境	<ul style="list-style-type: none"> ・富津の自慢として、店も医者も少なく不便だが、子供を育てるには自然がいっぱいあってとても良い。私の子供も自然の中で育った。 ・家の周りにはおじいさんやおばあさんがいて、昔は部落で地域力があり、子供を見守った。今は部落にも子供が少ない。子供会でも活発な活動をしているが、子供自体が少ないので、昔のような活動ができているのか不安。このような状況だと、その子が大きくなり子供会の活動に興味を持たなくなるのが心配である。
公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ・天羽地区は交通の便が悪い。電車の本数はますます減り、主人がJRで千葉に通っているが風が吹くとすぐ止まるため、君津まで迎えに行くこともあり、大変。地域の中では、電車を使っている人は少ないが、今後が心配。昔は放送で内房線の止まっている情報が流れていたが今は無いためスマートフォンで確認している。住み続けたいが、住み続けられるか不安がある。 ・電車の止まる情報はメール配信して欲しい。学生も困る。
地域力の伝承	<ul style="list-style-type: none"> ・代々、地域のリーダーのような人はいるが、自分の息子たちもやるのか不安。教えられる人がいるうちに教えなければならぬと思うが、なかなかうまくいかない。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・アパートが新しく建ち転入者が来るが、ごみ出しのマナーが悪い。アパートに住む人は、将来はどこかに行こうとする人だから地域力が弱い。
地域・民間ができること	
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・東京湾観音に都会の観光客が来ているが、売店の人は何もせず、観光客はただ下りてまたすぐにバスに乗って帰ってしまう。こういった時に、フツアアなどを配ればPRになると思った。
市民ができること	
該当意見無し	
その他（体験談等）	
<ul style="list-style-type: none"> ・私の地区は転入者が多いが、自治会にも加入し、地域活動にも参加してくれている。月1回の集まりにも転入者は出てくれているのでうれしい。 ・私が携わっている子供食堂の件でチラシを貼りたいと市役所に行ったら、貼りたい団体が他にもあるので子供食堂のためだけにスペースは開けられないと断られたことがあった。市からの応援が感じられなかった。 ・地域の話だが、市は道路の補修とかもタッチしないということを知る。 ・市民委員会は、委員意見に対して、市がそれに応じるような姿勢を見せ、実際に何をしていくのかを話し合う場でなければならないと思う。 	

- ・手話サークルを立ち上げる時に、教育委員会と協議したが、その際行政はすぐには動いてくれないと感じた。

(3) 基本的な施策の方向③ 高齢者や障がい者が地域で元気に暮らす

基本的な施策の方向、課題（市への意見を含む）	
独居・高齢者夫婦	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢の両親と暮らしているが、介護施設で週2回デイサービスを利用できており、ありがたい。独居、高齢夫婦世帯が不安。 ・自分の祖父とは話すが、地域のお年寄りと話す機会は無い。隣近所にどのようなお年寄りが住んでいるのかわからない状態である。
買い物難民	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人達がいる家は買い物ができるが、老夫婦で買い物に行けなくなると住みづらくなっていくので、課題ではないか。
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者について、手話サークルで今年の3月11日に「耳の日まつり」を富津公民館で行った。千葉県中の800人位の聴覚障害の方が集まった。私たちもアピール不足だったと思うが、皆さん知らないと思う。毎年4市で、心身障がい児者のスポーツ大会が今年は11月10日に袖ヶ浦の臨海スポーツ公園体育館で行った。障がい者の方は非常に前向きで明るく、物怖じせず一生懸命ボッチャなどをやっている。こういうことを行政ももっとアピールして欲しい。
地域・民間ができること	
買い物難民	<ul style="list-style-type: none"> ・南房総市ではセブンイレブンが個別に地域を回っている。 ・静岡の祖母の地区にはお買い物バスが週に2回来るので、こういうものがあると良い。
市民ができること	
該当意見無し	
その他（体験談等）	
<ul style="list-style-type: none"> ・空き家があると寂しい。将来空き家が増えるような地域なら転居しようと思う人が出てくるとよくないと思う。 ・まだまだ達者なお年寄りも多いと感じる。 ・コープの宅配サービスの注文方法は難しいので、祖母には無理だと思った。 ・湊の「吉田屋」が改装した時は、みんな買い物が出来なくて大変だった。 	

(4) 基本的な施策の方向④ 地域ぐるみの防災、防犯体制の促進

基本的な施策の方向、課題（市への意見を含む）	
消防団活動	<ul style="list-style-type: none"> ・消防団が消火栓の点検などしているようだが、車で通りすがっても声をかけてくれない。何をやっているのかは、わざわざ聴かないと教えてくれないので改善して欲しい。

避難時の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・近所の人からの話だが、この間大雨があった時に、避難のため公民館に行ったが、布団は無く、「自分の家から持ってきてください。」と言われた。備蓄のご飯とかも一切無いため、「自分の家から持ってきてください。」と言われた。本当に何かあった時に、どうするのかと思った。 ・以前、避難したが、発電機が動かなかったことがあった。メンテナンスは行政がしっかりやってくれないと困る。 ・ハザードマップを知らない人が多いのではないか。
地域・民間ができること	
地域での防災活動	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の部落では防災組織があり、年に何回か会議を行い、先週は地震を想定した防災訓練を行った。消火器訓練、救急対応訓練などを市役所、消防署、警察署の協力により実施した。
消防団活動	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の意識を高めるために一番良いのは、消防団の方の広報だと思う。消防団の方は、普段は仕事をしながら災害の時には火災消化活動等に参加しているので、半分は市民の立場である。火災消化活動等を市側からではなく消防団が一般の人という立場から言ってもらおうと響くのではないか。実際に活動している方の話は強いと思う。 ・消防団は顔見知りが多いから、活用によってはコミュニケーション取れそうだが。消防団はどちらかという地域に近い存在だと思う。
市民ができること	
避難用の備品	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から備蓄用品をリュック詰めることは、赤十字のつどいの中でやっている。スマートフォンの充電器なども持っている。 ・各自で3日分の備蓄を用意することについて、市もお金があれば全避難所に全部のご飯などを配れると思うが、ご承知のとおり、富津市は財政難。だからこういうときに自分たちで何ができるかが大事だと思う。テレビでも最低3日分の備蓄は用意すべきと言っている。 ・個人で多く備蓄している場合は、互いに分け合うという観点もあるのではないか。 ・確かに防災に関する備蓄や避難所での毛布等について、全員に用意があればいいと思うが、自分の身は自分で守るということは基本にあると思う。
防災への個人意識	<ul style="list-style-type: none"> ・防災については、市がどうこうじゃなくて、個人が考えることだと思う。例えば市が防災訓練をやっても、「うちには災害は来ないから。」と思いながらただ参加するのであればやっても意味が無い。実際、災害時に全部の救急車や消防車が出てしまっていたら、住民

	<p>がやらなければならない訳だから、やはり自分で意識を持つということが一番大切だと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練は、嫌々やるなら本気になって取り組んだ方がいいと思った。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・共助について、消防では心肺蘇生法やAEDの使い方の訓練を、赤十字では止血法、運搬法などを訓練できるので皆さんにも試してもらいたい。館山では、消防、赤十字、自衛隊などが出て大々的な訓練を実施した。このような機会があったら是非参加してもらいたい。
その他（体験談等）	
<ul style="list-style-type: none"> ・あまり地域の人とコミュニケーションを取れていない。実家に弟と2人暮らしで、朝早く仕事に出て、帰りは暗くなってから。回覧板も玄関に置きっ放しになるので、回さないようお願いしている。災害の訓練にも参加することもない。草刈りも日曜の朝に実施しているようだが、私たちは回覧を見ていないから行かない。できない訳ではないのだが。 ・防災について、個人の意識を高めることの必要性は理解するが、実際、休日などの参加には足が遠のく。 	

(5) 数値目標 富津市への愛着度（市民意識調査）

数値目標
<ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度の目標値については、下げた方がよい。 ・3年たって上がっていないのだから、下げた方がよい。 ・「よくわからない」と回答した人がどのように変化するか分からない。 ・今回の討議で出たマイナスの意見がプラスに変わっていけばこの数値は上がると思うが、そんな短い期間でできるとは思えない。 ・ハードルはやはり下げた方がよいのでは。目標達成しやすいので、少しずつの方がよいのでは。 ・一気に上げると一気に下がるのではないか。だから下げた方がよい。 ・若手としては、このままでよいと思う。

平成 30 年度第 1 回富津市民委員会 グループ 2 討議結果（要旨）

1 開催日時等

開催日時	平成 30 年 11 月 25 日（日） 午後 1 時 30 分～4 時 10 分
場 所	富津市役所本庁舎 5 階 502 会議室
討議事項	富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標 2
出席者	富津市民委員会委員 12 名（コーディネーター）武次治幸 （事務局）田内企画係長、坂本主事
傍聴人	4 人

2 討議事項

総合戦略の基本目標 2（くらしやすく、移住しやすい環境づくり）に記載している次の事項について、討議を実施。

- (1) 基本的な施策の方向
- (2) 課題
- (3) 地域・民間ができること
- (4) 市民ができること
- (5) 数値目標

3 討議内容（要旨）

(1) 基本的な施策の方向① 交通利便性を高める

基本的な施策の方向、課題（市への意見を含む）	
公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ・今現在もバスはすごく不便。一応走ってはいるが、乗っている人も少なく、利用している人も少ない。バス会社に言わせると乗る人が少ないという話になると思うが、だから走らせないということで悪循環になっている。 ・富津の奥の方から病院に行く場合、JR とバスの接続の時間がすごく合わなくて待ち時間が多く、タクシーの使用を検討せざるを得ないため不便である。 ・金谷在住だが、娘は車の運転ができないので、どうしても JR の利用となる。しかし、JR は風が吹くと止まる確率が高く、止まってしまうと仕事に行けなくなってしまう。こういう場合、以前は、その時間帯に合わせて日東交通などで臨時バスを出し、湊まで移動していた。 ・JR については、単線で酷い時は 1 時間に 1 本電車がやっと来るような状況であり不便だと思う。そこで JR に、どれくらいの乗客数が見込めるのであれば本数を増やせるのかを確認し、その数値を公表すべきだと思う。公表することで、どれだけ乗ればよいかという目標が分かり、市民が協力できるか否かは別として、その目標に対して一人ひとりが頑張ろうという気持ちになると思う。

	<ul style="list-style-type: none"> 君津駅のすぐ近くの塾でアルバイトをしている。富津市の生徒もいるが、授業が終わり帰宅する際に、電車が止まっている場合や遅延している場合、1時間に1本しかない電車だと、バス利用の選択肢が出てくるが、夜9時台になると大貫方面に帰る便が無いというのが現状で、保護者がわざわざ迎えに来る。夜の便や午後9時あたりのバスを増やしてあげて欲しい。 関豊地区は、上総湊から戸面原ダムまでの路線があるが、バス停から家までが遠く、利用できない人がいると思うので、もう少し路線を増やしていけば利用できると思う。 高速バスは竹岡や湊に停まるが駐車場が無いから結局、富楽里や君津まで行ってしまふ。また、家から駅も近ければ、行きは送ってもらい帰りはいい電車があればそれで帰れると思う。 青堀駅が最寄り駅だが、バスはあまり走っていないようなので、基本は車利用。電車で遠くに行くときは駅まで車で行き駐車するが、青堀駅は駐車場が無いので、君津駅まで行ってしまふ。
高齢者対策	<ul style="list-style-type: none"> これから高齢化社会になるが、実際、バスが無くてどこにも行けないということも耳にする。 お年寄りには家からバス停までの距離が遠いと使わなくなると思う。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 市民一人ひとりが公共のものを使うという主体性を持たない限りは公共交通の不便さは改善されないと思う。 他の民間事業者との連携として、近隣や富津市内の交通関係以外の会社に対し、社員の公共交通による通勤を要請することや、そのように対応した会社に補助を出すことなどを検討するのはどうか。 民間事業者との連携として、市はとにかく日東交通かJRに事業を全部丸投げしているように感じるし、そうなれば当然民間企業側としては利用者がいなければ走らせられない、採算が合わないというふうになってしまう。 コミュニティバスが走ってくると良い。 富津市全体としてどういうふうなまちづくりをしていくかが重要だと思う。富津市の特定の地区だけではなく、富津市全体として、農業や林業なども含め、全体が良くなるような道を探るのが将来的には良いのではないかと思う。
地域・民間ができること	
民間企業所有バスの活用	<ul style="list-style-type: none"> バスと宅配業者の車が連携して人と物を運ぶような事例をテレビで見たことがあるので参考にして欲しい。 民間企業として、金谷の「ザ・フィッシュ」がマイクロバスを所有していると思うが、利用していない時に活用する、また、観光協会にマイクロバス活用に対する補助をするなどできないか。しかし、そのような時のマイクロバスを運転する方の想定はできていない。 金谷の福祉施設「金谷の里」も利用者送迎用の大きなマイクロバスがあると思うので、利用されていない時間帯の活用が良いのではと考える。 金谷のフェリー乗り場にもゴルフ客の送迎バスがあるので、空いている時間に活用できれば良いと思った。

	<ul style="list-style-type: none"> ・金谷は観光地にもなっており、観光客に迷惑をかけないために、風が強いときの対応について、日東交通などと何か連携していければフォローができると思う。
市民ができること	
乗合・ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ・乗合の案として、私の母が高齢で運転ができないので買い物は私が連れて行くが、その際に近所のお年寄りや独居の方にも声掛けができれば良いと思うが、なかなかできていない。車を出すボランティアと利用したい高齢者などをマッチングができればうまく回っていくのではと思う。
その他（体験談等）	
<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の子供が自転車通学をしているが、大堀の森田建材付近のT字路には横断歩道はあるが信号が無い。横断するため自転車が止まっても車両は自分優先で止まってくれない。信号設置や地域・警察の方が立って、朝の通学時間帯だけでも誘導してもらいたい。 ・子供が低学年の時に、自転車で、小学校の通りの道路がガタガタで転んでしまったことが何度もあり、けがをしてしまったので道路を改善して欲しい。 ・富津にはマラソンランナーが多く、早朝4時頃に走っている人もいるようなので街灯を少し増やしてはどうか。 	

(2) 基本的な施策の方向② 住環境の整備

基本的な施策の方向、課題（市への意見を含む）	
公園の整備・管理	<ul style="list-style-type: none"> ・栃木県の益子から引っ越したが、富津を選んだ理由が近くに小中学校も高校、小さな病院もあり、君津中央病院にも車で行ける距離であることだった。また、主人が焼き物やっているため、山の中で生活をしているが、富津は海もあって、湊には遊歩道や広い駐車場がある公園もあるが、あまり整備されていない、それがすごくもったいないと思う。何かイベント、朝市、フリーマーケットなどをやった方が良いのではと思う。 ・公園を使っていなければ作る必要はないのではないかなと思う。無理して使う必要はないと思う。区画整理や都市計画に伴い義務的に作ったものだからそもそも使う目的ではないのではないかなと思ったので、無理して使わなくてもいい気がした。 ・公園は子供や母親もたまに使うが、草がぼうぼうで入ることができなかったことや、少し壊れているところがある。誰が管理者なのか園内を見ても分からないため、子供が遊んでいる隙間の時間に草を取ろうと思うが勝手にはやれない。管理者が分かれば、もっとみんなできれいにもできるし、時間がある人が草取りなどもできるのではないかなと思う。県、市、地域で管理する公園など様々であるようだが、管理者が分かりづらいので明確にして欲しい。
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい公園のテニスコートも改修されて、すごく使いやすいが、利用者が少ないと感じる。やはり情報発信だと思う。市民の方だと安く利用もできるので、もう少しアピールして欲しい。

空き家	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家や住んでないところが増えてきている。 ・ここ数年で金谷には若い方がすごく増え、「まるも」のシェアハウスで過ごしている方もいる。住むところが少なく空き家を探している状況のようだ。
住環境の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・3、4年前と比較して富津市の住環境が若い人たちに住みにくい環境になってきたと感じているが、私の近所には働く場所がほとんど無く、シャッター通りになっており、そうすると若い共働き夫婦は外に出ていかざるを得ない。 ・ちょっとした服、生活に必要な布団、色々な雑貨も含めて今富津イオンから無くなっているの、少し住みやすい環境ではなくなったと思う。やはり富津市から出ていかないと住めない環境なのではないかというところがここ3年間で変わったことかと思う。 ・よくインターネットで買い物をするが、やはり実物を見たい物もあり、富津イオンの品揃えが減った話を考えると、少し遠くまで足を運ばないと行けなくなったなど感じる。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・3、4年前と比較したときに、「富津市の住環境が若い人たちに住みやすい環境になった。」と感じる委員は少なく、「変わっていない。」と感じる委員は5、6人、「悪くなった。」と感じる委員は5、6人。 ・小中学校の統廃合を実施している状況で、それでも市外から来てもらうためには何か他とは違うことをやらなければ住みやすい環境とはならないと思う。 ・今でも富津市は住みやすいと思っている。買い物の不便さの話があるが、欲しいものはインターネットで買えるので、別にそんなに外で何かしたいとかもないので、逆に静かでいいなど感じている。 ・私は東京の大学に通っており、アクアラインバスを利用して東京の方に行くが、片道90分くらいで着くので、利便性はそんなに悪くないという印象がある。周囲には富津から東京へ通っている知り合いも多く、意外と利便性は悪くないと感じる。
地域・民間ができること	
該当意見無し	
市民ができること	
該当意見無し	
その他（体験談等）	
<ul style="list-style-type: none"> ・富津市がどうやって自活していける市になるかが重要だと思う。自活していくためには、エネルギーと食糧、この2つが自由になれば、自活していけると思う。 ・金谷は未婚者が多い。やはり漁師のところに嫁ぎたくない気持ちもあるのかもしれない。金谷では婚活イベントなどやっていたが、そこからなかなか続かない。 	

(3) 基本的な施策の方向③ 移住者受け入れの環境整備

基本的な施策の方向、課題（市への意見を含む）	
移住者等とのコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・移住者は、昔から住んでいる方とのコミュニケーションは重要なのだろうか。どれくらい問題視しているのかが気になる。 ・昔から住んでいる方とのコミュニケーションは、やはり引っ越してきたばかりは元からいた人に聞きたいことがあると思う。「まるも」については結構沢山で来ているから、多分新しい人が来やすい状況だと思う。 ・仕事をリタイヤし、知り合いのいない地にポツンと住むと、交流の場が無いとなかなかコミュニケーションを取れない。 ・大学進学により一時的に地元を離れたが、自分が知らない場所での生活では、その地域のルールなどを押し付けられそうな感じがあり、あまりコミュニケーションを取りたくなかった。コミュニケーションは、どちらかという、その土地のルールだけを知るようにすることでいいと思った。 ・主人は婿養子で田舎暮らしは初めてであり、最初は、「窮屈だ。」と言っていた。消防団への勧誘や地域の行事への参加依頼について断ると、陰口を言われるような雰囲気が出た。しかし、子供が生まれてからは、子供と一緒に祭りなどに参加し始めると、そこで交流ができ、主人も今地元で馴染んで過ごせている。
外国人への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・移住者受け入れについて、富津は肌の色が違う人はそんなに見ないが、そのような方も受け入れるしかないと思う。 ・移住者について、これから外国人労働者が来る時代になるので、母国語の情報提供などもやってもらいたい。 ・観光について、来てもらうには日本人相手ではなく、外国人に対して英語などの表記をした方が良く思う。
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・移住者受け入れについて、どんなに良いことをやっても、他で知られていなければ何の価値もない。アピールするのが大事だと思う。 ・人口減少については、富津市は何が良いかというのを発信していかなければならない。君津、木更津と同じことをやっているとだめだと思う。ホームページも手段としては古い。もっと新しくした方がよい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・金谷には「まるも」を通じて移住者が集まる状況、金谷石の歴史、金谷石を使ったピザ屋など、生活環境が整ってきて、金谷の取組が面白ということで大学生も興味を持ち、移住者が結構いると思う。 ・私の世代はもう子供が中学生や高校生になり、お金がかかるようになってきているため、働く場所を探しているが、どうしても君津、木更津まで行かないと自分の希望に合う職場が無い。できれば富津市内で働きたいと思っている。市役所の中に働く場所についての相談や仕事を提供してくれるコーナーがあれば、市内で職を見つけ働きたいと思う。 ・現役世代が増えるためには、仕事がないと人は来ない。必ずしも富津市内に職場が無くても通える範囲であればいいと思う。市外で

	<p>稼いで富津市で暮らすという考えも良いと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富津市は割と土地が安い、あまりにも安さだけを売りにして人を呼び込んでも、安さに飛びつく方は低収入者や仕事をリタイヤした年金暮らしの方の可能性もある。人口だけ増えても使う税金がその分増えればプラスには転向しないと思うので、労働人口を増やすこと、現役世代を増やすことを考えていかなければならないと思う。
地域・民間ができること	
移住者等との関わり方	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の奉仕活動への参加については、アパートであればそのアパートの大家さんや管理会社が入居者に対して入居する段階で、地域活動の紹介などや分からないことがあった場合に連絡することができる地区の方を教えるべきだと思う。 ・金谷では、区長会長、区長、そして各部落の班長がいるが、班長が集金などを行い、引っ越してきた方にも声を掛け集会などに誘っている。ただ、それが若い子にはお節介に捉えられてしまうこともあるが、移住者との接点として、最初の入り口は班長からの声掛けからでなければなかなか地域の人と話すきっかけはないと思う。 ・民間や地域ができることとして交流ばかりではなく、来てくれた方が考えている近所付き合いなどを求める度合いなどに合わせて対応し、広い心で受け入れていけば良いと思う。
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・地域、民間、市民の情報発信について、観光協会があるが、知っている人はそんなにいないのではないかと。観光協会のホームページに地域の情報などを載せると、外国人はわざわざそれを見に来る時代になっている。また、富津市の名所などに顔が抜いてある記念撮影ボードを設置してはどうか。
金谷の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・金谷の移住者への取組については、観光協会だけではなく商工会も一緒に取り組んでいる。やはり金谷の商店街も少し寂れてきているので、どうやったら活性化してお客さんが来てくれるかを努力していると思う。 ・金谷の商店については、お年寄りが多いから、田舎ならではの電話注文による無料の配達サービスがあり、それが小さな商店の良いところだと思う。そこを利点にして何か先に進めていけばよいが、どうしても大きい店舗などができてしまえば、一括で何もかも揃うので小さな商店の客は減る。確かに寂れてはきているが、商工会の方や青年会の方たちも一緒に頑張っている。金谷の商店の特色として、小さいワゴン車に食べ物を載せて、自力で店舗まで来られなそうなところに行き移動販売を行っている。こういうのがもっと広がるといいのかもしれないが、コスト面で少し大変なようだ。また、大手のセブンイレブンやローソンが始めてしまえば、金谷の商店にも影響がでると思うが、買い物難民には利点だと思う。
市民ができること	
活動の場	<ul style="list-style-type: none"> ・以前金谷のカナヤベースで市場があり商品を販売したが結構売れた。鋸山ロープウェイに行く観光客が通る場所なので、そういう方が買っていった。そのような取組は面白いと思う。

その他（体験談等）

- ・RESAS（リーサス）という地域の解析などを行っているシステムがあり、政策アイデアコンテストを実施している。富津市も新しいものを作り上げていくためにチャレンジするのはどうか。

（４）基本的な施策の方向④ 生活環境の保全

基本的な施策の方向、課題（市への意見を含む）

有害鳥獣	<ul style="list-style-type: none">・私の住む地区の農業従事者は主に高齢者だが、秋の収穫時期になってイノシシやシカが田んぼを荒し、だめにしてしまい、離農または農業自体を辞めてしまう方がいる。しかし、土地改良賦課金などは払い続けている。有害鳥獣の問題は複雑で、自分のところで追い払っても隣の田んぼに逃げ、それがまた君津の方に行き君津で被害を受ける。富津市だけの話ではなく、千葉県や国のレベルでイノシシだけは駆除してもらいたいと思う。また、農作物だけではなく人にも夕方になると飛び出てくるため、月に何件かはそういう交通事故があり、まだ死亡事故は聞かないが、とても危険。・有害鳥獣の駆除については、富津で捕っても君津の有害鳥獣がくる。だからみんな一斉にやらないと効果は無い。・有害鳥獣は利口なので、一度罠にかかると次はなかなかかからない。私も県に相談に行ったが、動物愛護法の関係で、たとえば、「捕獲器は有害鳥獣の足を痛めるため使用できない。」ということだった。・サルはまだかわいいものだが、イノシシのお米への被害は酷い。進入防止に電柵や網を使っているが手入れが大変。今では富津市役所付近にも少し出てきているようだ。もう手遅れかもしれないが、駆除してもらいたい。
ごみ出しのマナー	<ul style="list-style-type: none">・ごみの出し方について、結構年配の方の分別マナーが酷い。・結構若い人の方が学校で分別やリサイクルについて教わるので、子供の方がしっかり出来ている。・君津市はゴミの分別が非常に厳しいが、富津市は優しい。・富津市民について、ゴミ出しの曜日は守られていると思うが、中身の分別が出来ているかは分からない。
その他	<ul style="list-style-type: none">・私の住む地区では、ゴミ置き場を荒らすカラスの被害がある。・有害鳥獣は昔なら捕まえて食べたと思うが、今はみんな舌が肥えているのであまり食べない。

地域・民間ができること

ごみ出しのマナー	<ul style="list-style-type: none">・新しく越してきた方で自治会に入っていない場合、自治会共有のごみ出し場は利用しづらいこともあると思う。しかし、そのような方が3交代勤務などを理由に前日の夜中にゴミを出しているが、そうすると夜中に野良猫やカラスがゴミを散らかす。自治会に加入し、なおかつルールを守り、お金を出してごみステーションを作った人たちからすれば不満に思う。ただ、その一方でアパートの入
----------	--

	居者専用のごみ出し籠に、居住者以外の方が捨てているのをよく見かける。課題は、収集場所の管理などに改善の余地があると思う。
市民ができること	
ごみ出しのマナー	・ごみのポイ捨てについて、私の家は国道沿いだが、路面に投げ捨てられていた割れた瓶については、国道になるが私が掃除しなければと思い掃除した。
その他（体験談等）	
<ul style="list-style-type: none"> ・シカが電車にぶつかり角がとれなくて遅延が起きたことがあった。 ・私は富津に越してきて、地域の人はいないいい人で、地域として何か購入する場合には声をかけてくれる。すごく地域の人に助けられている。 ・子供と車に乗っていて際、前の車が窓を開けておもむろに吸い殻を捨てた。それを子供が見ていて、「あれは誰が掃除するのだろう。」と言っていた。 	

(5) 数値目標 『これからも富津市に住み続けたい』の割合（市民意識調査）

数値目標
<ul style="list-style-type: none"> ・現総合戦略の目標値である85%のままで良いと思う。 ・平成31年の目標値の妥当性については、現状低くなり、目標値まであと11%ということだが、少なくとも目標値としては85%を目指すべきだと思う。もちろん目標値なのでそこに到着しなければという気概は必要だと思うが、低すぎてしまうのも問題だと思う。 ・現実的なところを見ていくと、現時点から85%に上げるには10%以上も上げることになり、そこまで急激な変化は難しいと考えるので、80%までがよいのでは。

平成 30 年度第 2 回富津市民委員会 グループ 1 討議結果（要旨）

1 開催日時等

開催日時	平成 31 年 2 月 17 日（日） 午後 1 時 30 分～3 時 45 分
場 所	富津市役所本庁舎 5 階 503 会議室
討議事項	富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標 3
出席者	富津市民委員会委員 10 名（コーディネーター）オノミチ三由紀（事務局）坂本企画課長、山田主任主事
傍聴人	8 人

2 討議事項

総合戦略の基本目標 3（子どもの笑顔があふれるまちへ）に記載している次の事項について、討議を実施。

- (1) 基本的な施策の方向
- (2) 課題
- (3) 地域・民間ができること
- (4) 市民ができること
- (5) 数値目標

3 討議内容（要旨）

- (1) 基本的な施策の方向① 出会いの場を創出し、結婚の希望をかなえる

基本的な施策の方向、課題（市への意見を含む）	
出会いの場の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・富津の若い人は、富津に住んでいると出会いの場がなかなか無いため、出会いの場を求め、人が多い都会に行き、そこで生活し、勤めたいと言っているようだ。 ・都会での出会いの場は、職場や合コンなどではないか。 ・息子は、富津に住んでいると出会いの場が無いと言い蘇我に引っ越した。その結果、出会いの場は多いようだ。 ・富津で自営業、のり、農業をやっている人の出会いは厳しいと思う。やはりお嫁さんは、その家の家業を背負うということを結婚する際に考えるから。富津市内で出会うということ自体厳しいのではないか。 ・職場結婚も気心が知れる者同士でよいと思うが、富津では就職しても同期が少ないため職場結婚ができないと聞くことがある。大きな会社がある都会に出て行ってしまっても納得する。 ・子育てしている親に自分が配偶者に出会った場所を聞いたところ、飲み会での出会いがあった。しかし、出会いはどのような場面でもいいので、過程が大事であるとの意見もあった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージとして、行政が婚活パーティーを企画すれば気軽に参加できるのではないかと。 ・その他、現在の総合戦略の課題にあるように、婚活の場、出会う機会が少ないと感じている意見多数あり。
出会いに対する考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の同級生が同窓会を通じて結婚した。まさに理想例であると思うが、本当にまれではないかと思う。同窓会は、過去を知り過ぎてしまった者同士が集まるためなかなかその先に進まないこともあるので、全く知らない者同士が気軽に話せるような場が必要だと思う。 ・自分の周りに2回目の出会いを必要としている者もいるが、婚活パーティーへの参加ということが気持ちの中でマイナスに捉えてしまい、行かないと出会えないという心情になってしまう。きれい事かもしれないが、勤め先で知り合った、食事会で知り合ったというのが理想。小さいことかもしれないが、そういったプライドがある。結果、お見合いとなったとしても、体裁が欲しいのでは無いか。 ・偶然出会うのが理想。
ネーミング、イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・婚活パーティーを経て結婚した知人の親が、結婚式で「どこで知り合ったのですか？」との質問に「婚活パーティーで知り合った。」と言うのはすごく嫌だと言っていた。ネーミングとしては、婚活パーティーと言うのは良くないのではないかと。 ・合コン、婚活パーティーも年配者からするとあまりいい名前ではないと思う。 ・その他、婚活のイメージが良くないと感じている意見多数あり。
仲介者	<ul style="list-style-type: none"> ・以前、市の結婚相談所に知人を連れて行ったことがあるが、相談員は本気になってくれない、全然面倒を見てくれないようだった。やはり、お見合いを仲介するような人がいた方がよいのではないかと。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・顔見知りが集まるのではなく、誰が来るのかわからないというように、広範囲の方が行きやすいのではないかと。 ・婚活よりも、就活が大事だと思っている。結局、働き先がなければ出会いが無いという感じになると思う。
地域・民間ができること	
出会いの場の創出	<ul style="list-style-type: none"> ・どこの町内にも青年会はあるが、女性の集まりは無いと思う。また、消防団にしても男性だけだと思ってしまうので、地域でこのようなものにそれぞれ女性の集まりもあればいいと思う。
市民ができること	
出会いの	<ul style="list-style-type: none"> ・出会いの場として考えるのであれば、20代、30代の方のバレーボ

場創出、PR	<p>ールやテニス大会などを企画し、友達同士で参加して、趣味と出会いの場が一緒にできるようなものにし、その回数を増やしていった方がよいのではないかと。また、このような趣旨で場所を利用する際は施設利用料を無料にすれば遊びながら気軽にできるのではないかと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富津の人と結婚するとこんなにもいいところがあるということ、近隣市、千葉県全体にPRしていく。また、このことは地域でも自分自身でもやろうと思えばできると思うので、身近なところからやっていきたい。
仲介者	<ul style="list-style-type: none"> ・昔は、お見合いを仲介するような女性、生命保険会社の女性が紹介してくるケースも多く、上手くいっていることもあったと思う。今は、そのような話は聞かなくなった。 ・いろいろな出会いの場に自分から行くのはやはり勇気がいると思うが、先輩が声を掛けると行きやすくなる場合もあると思う。私もそういう機会があれば声を掛けていきたいと思う。
その他（体験談等）	
<ul style="list-style-type: none"> ・昔は、同級生、学校の先輩や後輩、同じ大学などで結婚することが多かった。 ・昔は結婚式で呼ばれた者同士で結婚した事例などはよくあった。 ・独身主義者が多いのでは。また、結婚しても子供を作らない人もいるということも聞く。 ・私の周りでは結婚していない人がたくさんいる。息子も含めてだが、やっと結婚しても本人は60歳、相手は58歳という場合もある。そうなってくると少子高齢化の解消や「子どもの笑顔があふれるまちへ」という目標まで進まない。 	

(2) 基本的な施策の方向② 出産、子育てしやすい環境の整備

基本的な施策の方向、課題（市への意見を含む）	
見守り、ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で登下校時の児童の見守りをしている。大貫地区の吉野や佐貫の子供たちは学校と自宅の距離が遠く親は心配だと思ふ。 ・自分が積極的に子供の見守りや安全について関わってなくても、防災行政無線から毎日流れる「地域で子供を見守りましょう」を聞く度、地域や自分自身としても関わっていかねばならないと思う。 ・地域でボランティアが通学につき添う、校舎入り口に立つなど活動しているが、これは歩道などを整備していないところがあり安全面に不安があるから実施しているのではないかと。思う。 ・田んぼ道の草が伸びて子供たちが通学する様子が見えない場所がある。富津は防犯カメラがあまり付いていないため、そのような場所を悪用し、車で誘拐されることもあるのではないかと。行政か

	ら田んぼの持ち主に草刈りを頼み、通学路の安心を図ってほしい。
産婦人科、小児科の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てのしやすさを考える前に、出産しやすいまちづくりが重要。富津市に以前は熊切産婦人科、町沢産婦人科があり、夜間でも無理を聞いてくれた。また、子供がある程度大きくなると小児科も必要になるが、富津市には小児科、専門医も少ない。都会であれば専門医が多く、若い人は安心できる都会に行くのではないか。そのようなことを考えると富津は子育てしやすいかとなると首をかしげてしまう。 ・天羽地区の小児科は原田内科小児科医院しかなく、車で行かなければならないため非常に困った。
子育ての相談窓口	<ul style="list-style-type: none"> ・昔は子育ての体験などを周りに話し、子育ての仕方、不安などの相談に乗っていたが、今は仕事などで忙しくなりそのような機会は無くなった。 ・子育てで不安になったとき、職場の先輩や実家の親によく相談した。「子育ての話 何でも聴きます窓口」があるということをもっと周知する必要がある。実際に相談に行かなくても、いつでも相談してくれる場所があれば安心すると思う。また、田舎だと色々陰口たたく人もいるので秘密厳守となると気軽に相談しやすいと思う。気軽に行けるような体制が整っていることを市民に浸透させるようにアピールするのも大事。 ・今の若い人は、子育ての体験などをSNSで知ることもあるが、心の問題となると、SNSだけではすまない場合もある。誰かに聞いて欲しい、聞いてもらっただけで楽になる、うつがなくなるということがある。
声掛け	<ul style="list-style-type: none"> ・最近では、公園で大人が子供に「さよなら」と声を掛けただけで通報されたりすることもあり、気軽に声掛けすることは難しい場合もある。また、男性からの声掛けは女性からよりも難しいと思う。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜から移住した家族は、富津では車が無いと何もできないと言っていた。また、青堀駅にエレベーターが無く、ベビーカーを持って行くと不便さを感じたと言っていた。 ・職場のスタッフが育児休暇後の仕事復帰のために子供を保育所に預ける申請をしていたが、市からなかなか返答がなく、不安になった母親は託児所併設の他の会社に移ってしまった。仕事復帰したいと思っても手続きが預けたい親たちの目線に立っていないので、スムーズにしてもらいたい。
地域・民間ができること	
該当意見無し	
市民ができること	

<p>情報共有、声掛け</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・親自身も子育ての情報にもっと目を向けていかなければならないが、市民ができることとして、知り得た情報を近所の母親たちに教えてあげるなどの声掛けも大事。 ・自分の昔の経験として、下校時に1人で帰ることが結構あったが、当時母親から、とにかく顔を見た全ての大人たちに挨拶をしなさいと教えられていた。その理由は、有事の際、普段から挨拶をしていれば周りの大人も気にしてくれることや助けになってくれるかもしれないから。このようなことを中学、高校まで行っていた。 ・市民ができることとして、今回の討議を通じて子供に声掛けをしていかななくてはと思った。
<p>その他（体験談等）</p>	
<p>・横浜から移住してきた家族が言うには、富津は自然がいっぱいで、古墳が多く、住みやすいところだと。また、空気がきれいなので、沖縄ほどではないが、夜にオリオン座がきれいに見え、食べ物がおいしく、都会と比べてごちゃごちゃしてなくてとても住みやすいところだと。人も温かく、子育てに手厚い制度があり、3人目の保育料が無料だったので3人目を産むことができたとのこと。</p>	

(3) 基本的な施策の方向③ のびのび学ぶ教育環境の整備

<p>基本的な施策の方向、課題（市への意見を含む）</p>	
<p>学校、給食情報の周知</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昔は「給食の試食会」が年に1回位あった。子育てから遠ざかってしまったので、今はご飯が中心であることなど知らなかったこともある。そういった意味でも現状を知ることによって試食会があれば行きたいと思う。私たちも関心を持たなくてはいけない。 ・富津小学校が「はまゆう」というかわら版を20年位作っており、子供はもう大きくなってしまったが、これを見る度に学校とのつながりを感じる。継続は大事だと思った。 ・学校の情報について、飯野地区では飯野小学校が「飯野っ子」というかわら版を作っている。 ・湊地区では児童が米を作りバザーなどで販売を、天神山小学校では豆腐を大豆から作る授業をやっている。このような事例を広報ふつつなどで周知した方がいい。 ・「教育環境や学校給食に関するニーズに応じた情報提供」という課題が引き続き課題として認識する必要があると感じる意見多数あり。また、その情報提供の方法として、地域で回覧するだけではなく、富津市全域で情報共有をすることも重要であると感じる意見多数あり。

子供会の衰退	<ul style="list-style-type: none"> ・子供会では、花火大会、キャンプ、色々な行事をやっていた。昔は、1つの部落で子どもが30、40人位いたが、今は3、4人と少ない。子供会自体が衰退している。 ・今は子供も少なくなってきたので、活動自体が減っているが、昔は子供会で遠足があり、母親、父親も参加し、地域が活性化していた。今は仲間だけで行っているようだ。
地域を知る体験	<ul style="list-style-type: none"> ・子供が小学校5年生の時、体験学習として漁船に乗り、釣りをしたが、いまだに兄弟同士でも楽しそうに話をしている。なかなかできない体験なので、続けてもらいたい。
地域・民間ができること	
地域で子供を育てる	<ul style="list-style-type: none"> ・「まちの先生」以外に地域では祭り囃子の笛を教える方がいる。 ・地域でお祭りのお囃子を教えているが、その他にも山車を引くことに例えて、「上り坂」、「下り坂」、「まさか」もあると教えることもある。また、お囃子も稽古なので、礼儀なども学習させている。 ・手話サークルで子供たちに単語から教えている。これにより障がい者にも目を向けることになると思う。
市民ができること	
学校、給食情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の情報についてはPTAに直接聞いている。
その他（体験談等）	
<ul style="list-style-type: none"> ・学校では地域のことを学ぶ場として、校外学習や職場体験があった。 ・防災について、子供を安全に育てるには、家庭でも学校でも、子供たちに防災の気持ちを強く持ってもらう教育が必要と感じる。 	

(4) 数値目標 子育てしやすいと感じる世帯の割合（市民意識調査）

数値目標
<ul style="list-style-type: none"> ・「富津市は子育てしにくいところだと思う」の割合が速報値で10.1%減少したことはすばらしい。市は国に言われている以上に情報発信をしていると思う。 ・「富津市子育て応援ガイドブック」について、全員に送っていないのであれば数値目標を100%にするのは無理だと思う。市は100%にしたいと思うのだが、絶対に無理だと思う。皆が知らなければ皆で数値を上げようという気持ちにならないのではないか。 ・ホームページで子育ての情報を載せているが、私自身、ホームページで子育ての情報は見ない。ホームページは自分の調べたいことしか見ない。 ・次期戦略でも数値目標を100%にするのは無理だと思うが、市としても子育てについては数値を大きく持った方がよいと思うので、85%から95%に高くし

てはどうか。

- アンケートの設問が分かりにくいと思った。
- 数値目標は50%でもいいと思うが、高い数値を目指すのであれば、本日の討議で皆があと一息頑張れば課題解決につながると認識した意見等を踏まえて目標を立てていくと、皆の士気も上がると思う。

平成 30 年度第 2 回富津市民委員会 グループ 2 討議結果（要旨）

1 開催日時等

開催日時	平成 31 年 2 月 17 日（日） 午後 1 時 30 分～3 時 45 分
場 所	富津市役所本庁舎 5 階 502 会議室
討議事項	富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標 4
出席者	富津市民委員会委員 8 名（コーディネーター）鳥飼尚 （事務局）田内企画係長、坂本主事
傍聴人	8 人

2 討議事項

総合戦略の基本目標 4（市の産業、仕事を創る）に記載している次の事項について、討議を実施。

- （1） 基本的な施策の方向
- （2） 課題
- （3） 地域・民間ができること
- （4） 市民ができること
- （5） 数値目標

3 討議内容（要旨）

（1） 基本的な施策の方向① 雇用の創出

基本的な施策の方向、課題（市への意見を含む）	
雇用の受け皿	<ul style="list-style-type: none"> ・富津は、仕事が少ないというか、大きな企業が少ないと感じる。 ・企業側が会社を作るにあたっては、周辺に働き手がいるか、交通の便が良いか、流通コストがどれくらいかかるかを考えると思う。その点で富津市に魅力があるかという点、全てを満たすことは難しいと思う。 ・仮にお金を出して企業を誘致しても、法人税収入は増えると思うが、工場の機械化が進んでいるため、雇用が生まれるかどうかはわからない。安い土地があり、奨励金も出すから来てほしいという誘致の方法は、今の時代では難しい。 ・介護施設で働いているが、現状でさえ人が足りない。女性の働く場でもあるが、求人を出しても人が集まらない。 ・今は外国人を受け入れていく時代だと思う。 ・若い人たちはショッピングモールなどのキラびやかな場所ができると、そちらで就職したがる傾向がある。 ・雇用の受け皿が実際にはあるという意見を伺って、募集していることを広く PR できる場があれば良いと感じた。 ・産業によって雇用状況に差が出ているのではないかと感じる。

<p>女性が働ける場の不足</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・女性が働く場合、子育てや親の介護問題があつて働けない方もいると思う。その人たちの環境をどうにかしないとますます働けないと思う。雇用が少ない状況で更にこのような自分の事情を受け入れてくれるところまでを求めると、女性はますます働けない。 ・引っ越してきて働く場所を探したところ、そもそも富津は人口が少なく企業が少なさからしょうがないが、女性の働く場所はゴルフのキャディやレジ打ちのようにとっても限定されていると思う。人口を増やさないと企業自体も増えないと思う。 ・私の地元は観光地なので働く場所はあるが、土日でも子供を預かってくれる場所が無く、幼稚園でも熱が出ると預かってくれないため、小さい子供のいる母親は働きにくい。
<p>企業誘致奨励金</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企業誘致奨励金の対象企業は地元の人を優先的に雇用しているのか。せつかく企業が来るのであれば、地元雇用の場として広がっていけば良いと思う。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・選ばなければ仕事はある。若い世代に、一生懸命がつがつと働きたい人はあまりいないのではないか。きつい仕事は嫌、楽をして動画を撮るなどにより収入を得られればそれで良いと思っているのではないか。 ・女性に限ったことではないが、特に女性を必要とするような病院や介護施設の企業と市が一緒になって周知以外の事も含め知恵を出し、雇用の確保に取り組むことが必要ではないか。 ・訪問介護も働く人が少なく、高齢者の方が多い状況である。 ・工芸職人に対して市独自に技能賞を設けるなどすれば、技能向上のモチベーションが違ってくるのではないか。
<p>地域・民間ができること</p>	
<p>育児と仕事の両立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・出産した人、未就学児のいる人を対象に時短勤務の制度があるが、制度を利用しない側の人はその分負担を強いられるため、利用しない人にメリットを与えることを考えると良いと思う。 ・働いている間、子供たちを預かってもらうのは民間企業では難しく、地域で考えなければいけない問題なのかなと思う。
<p>市民ができること</p>	
<p>該当意見無し</p>	
<p>その他（体験談等）</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・私は農業をやっているが、農業分野の雇用確保については難しい状況にある。しかし農業というのはあくまで人の食べるものを作るので、持続できるシステムを作ることが重要であり、それを理解して働く人が増えることを願っている。 ・私は介護の仕事をしているが、想像と実際に携わることには差があつて長続きしないのではないかなと思う。仕事の休みの調整や、人間関係に悩んでいる人が多いと感じる。 ・雇用の創出について、地域、民間、行政が一緒になって取り組む方が良い。 ・行政の入札制度について、仕事を受ける会社に偏りがあるのではないかなと思う。仕事をもらえない企業にも利益が行き渡れば良いと思う。 ・職に応じた能力や知識を身につけることについて、資格を取れば時給が上がる制度を設けても、従業員それぞれの価値観があるので、上を目指す人もいれば自分 	

はこれで良いと思う人もいる。

(2) 基本的な施策の方向② 地場産業の振興

基本的な施策の方向、課題（市への意見含む）	
特産物販売所	<ul style="list-style-type: none"> ・私はJAの直売所等に農作物を販売しているが、富津市にはそういった施設が無い。 ・道の駅などがあれば観光など、人は集まると思う。 ・金谷の「ザ・フィッシュ」の駐車場では地元の方が農作物を販売している。ゴルフ目的で来た方が帰りに買っているようだ。狭い場所で販売しているようなので、規模を拡大できれば良いと思う。 ・上総湊のJAで地元の農家が水曜と土曜に朝市を実施している。地元の方は知っているが、PRして効果を試しても良いと思う。 ・今の時代はネット等で拡散しなければPRは難しい。 ・消費者とふれあう場を設けることによって、農業に興味を持つ人も増えるかもしれない。
農地の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> ・私は農家ではないが農地を持っている。土地改良賦課金は農地を使わなくてもかかる費用なので、負担してもらえたら是非農地を使ってもらいたい。農地を売るときは償還金を一括納入する必要があり、売ることができずに賦課金を払い続けていると聞く。 ・耕作放棄地を農業大学等に広報して使ってもらえるのはどうか。
漁業の現状	<ul style="list-style-type: none"> ・東京湾での漁業は、対岸の神奈川や東京で埋立等があると潮の流れが変わり、魚が獲れなくなることがあると聞いている。民間企業や富津市だけではどうしようもなく、隣接した都道府県を巻き込んで問題提起しなければ回復しないのではないかと。 ・金谷は漁師のまちだが、高齢者が多く跡継ぎがないことが深刻な問題になっている。子供たちが漁師を継がないため廃業や釣り船に転業する方が増えている。地元では「ななせのアジ」が有名だが、アジ1種類だけでは存続は難しい。 ・結婚していない漁師が多く、子供も減っている。
農業体験	<ul style="list-style-type: none"> ・子供を田植えや刈入れ等の農作業に携わらせたい親が多いと聞いている。 ・小学校では地元の方の協力により田植えなどの農業体験を行っているところもある。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・東京大学の学生が相川地区で実践的な体験を行っていると聞いている。市でも広報に力を入れてはどうか。 ・天羽地区は小学校の合併が決まっており、若い人が来ないと思う。 ・人口が少ないことを逆手にとって、無人運転や介護ロボットのモデル都市に名乗りを上げてはどうか。試験に携わる人が外から来てくれるほか、交通や農業、介護等に活用できると思う。
地域・民間ができること	
空き校舎の利活用	<ul style="list-style-type: none"> ・空き校舎を利用して、地元の方が講師になり、海苔づくりや炭づくり等の技術を勉強できる専門学校をつくるのはどうか。大々的

	にPRすれば若い人が来て、地場産業も育つのではないか。
市民ができること	
地域活性化	・山間地の水エネルギーを利用した農業や、加工品等の6次産業化で富津市を活性化していきたい。
その他（体験談等）	
・漁師まちの金谷では、跡継ぎ問題が深刻になっており、以前に何回か合コンの企画を地元の方が主催していた。	

（3）基本的な施策の方向③ 観光の振興

基本的な施策の方向、課題（市への意見含む）	
観光地としての整備、PR不足	<ul style="list-style-type: none"> ・高岩山のハイキング客のほとんどが、道が整備されている君津市側から来ているので市内から向かう道路も整備してほしい。また、キャンプ場を通年で営業してほしい。 ・吾妻神社は、最近階段やトイレが整備され、人が集まるようになってきている。歴史のある神社なので、富津の歴史に関連づけて面白いストーリーを作りPRすれば観光客も集まると思う。 ・鋸山は東京から近いので、頂上に食事ができる場所などを整備して、ロープウェイから見えるきれいな夜景をPRしてほしい。 ・駅からハイキングというJRの企画に参加したが、市とは関係ない企画でも富津市のPRに利用したら良いと思う。 ・大堀地区は観光地という実感が薄いですが、ふれあい公園には人は来ているので、千葉県民マラソンの機会を利用してもっとPRしても良いのではないかと。 ・ふれあい公園については、健康ブームもあるので、気軽に安心して走れる場所や球技などができることをPRしても良いのではないかと。 ・鋸山の富津側の登山道の近くにヒカリモの生息地があるが、鋸山でまだ宣伝されていないことをPRしてほしい。 ・千葉県民マラソンや金谷のフェリー乗り場などで、ランニングと温泉を組み合わせてPRしてほしい。 ・金谷は温泉が有名にも関わらず、地元の人あまり利用したことが無いということを知り、かぢや旅館では日帰り入浴ができると思うが、もっとアピールした方が良さそう。 ・アニメの聖地などの資源があるかもしれない。 ・週末に郊外のセカンドハウスで過ごすスタイルとしてのクライנגルテンの場として提案してほしい。東京から近くて気候も安定しており、魅力的だと思う。（※クライנגルテンとは、日本語では主に「市民農園」と呼ばれ、農地の借地制度のこと。）
地域・民間ができること	
イベントの企画	<ul style="list-style-type: none"> ・全国で実施されているイベントを富津でもアレンジして実施できないか。 ・千葉県民マラソンは千葉県が、金谷のトレイルランは地域が主体

	<p>でやっている中で、これ以上マラソンや駅伝の周知をするといっ ても、もう1カ所どこかでやろうという感じになるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金谷では金谷ストーンコミュニティー、商工会、観光協会が連携 して事業を実施している。他の地域でも1団体だけでなく、地域 に根付いた団体の間で連携できたら良いと思う。
市民ができること	
空き家の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・市外から来た人だと思いが、空き家を貸別荘に改装しており、す ごく流行っているようなので、空き家はもっと活用できるのでは ないか。
その他（体験談等）	
<ul style="list-style-type: none"> ・地場産業の振興とも関連するが、富津イオンの空きテナントが増えているよう なので、一時的に間借りして地元の農作物や海産物を販売してはどうか。富津イオ ンの方でアピールしてくれるなら、市外の人にも広まっていくのかもしれない。 ・志駒の廃校になった小学校で春と秋にイベントを実施していたようだが、地元 にいてもよくわからなかった。さまざまなイベントを行うにも、地域に人がいない と立ち上げることができない。 ・水力発電を利用した農業や養殖を活用して、観光につなげられたら良いと思う。 	

【数値目標 働く場所の創出への満足度（市民意識調査）】

数値目標
<ul style="list-style-type: none"> ・現状を見るとなかなか数字は上がっていかないと思うが、目標値はこのままでよ いのではないか。 ・平成27年度から平成30年度までが2%しか上がっていないので、現状のままで あれば2%増の18%が良いのではないか。 ・具体的な大きな変化がなければ、18%から20%位。 ・現実的には18%位だと思う。希望をもって20%。

参考資料

委員名簿・コーディネーター名簿.....	45
平成 30 年度 富津市民委員会実施要領.....	46

○委員名簿

グループ1	グループ2
富永 健太	丸 征那
田中 聖也	根岸 秀明
鈴木 こころ	霜崎 智広
進藤 亮介	村山 裕史
山口 智	水野 健
村田 加奈子	中村 智也
鹿島 正和	安田 寛子
加藤 喜一	長 裕子
石井 千恵子	岡本 雅美
忍足 祐一	和田 直美
高山 良子	小林 健一
川崎 郁子	柴田 理恵
中後 慎一	今岡 洋子
鈴木 恵子	池田 吉康
武次 喜代子	森 貴美

○コーディネーター名簿

	グループ1	グループ2
第1回	富津市創生会議委員 オノミチ 三由紀	富津市創生会議委員 武次 治幸
第2回	富津市創生会議委員 オノミチ 三由紀	富津市創生会議委員 鳥飼 尚

平成 30 年度 富津市民委員会実施要領

1 趣旨

市民が幸せを感じられるまちの実現を目指す「富津市人口ビジョン2040」を踏まえ、まち・ひと・しごと創生法第10条の規定に基づき、2020年度以降の富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「次期総合戦略」という。）を策定するに当たり、次期総合戦略も引き続き、市民とともに創り上げ、実行していくことから、幅広い市民からの意見を反映させるため、富津市民委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

2 討議事項

次期総合戦略策定に向けて、現在の富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「現総合戦略」という。）に定めている次の事項について、討議する。

- (1) 各基本目標の数値目標
- (2) 基本的な施策の方向
- (3) 課題
- (4) 地域・民間ができること
- (5) 市民ができること

3 組織

- (1) 委員会は、富津市の住民基本台帳登載者のうち15歳以上のものから、若年層に傾斜配分し、無作為抽出により選出されたもので、かつ、委員会への参加希望をした者の中から抽選により選出された委員をもって組織する。
- (2) 委員の任期は、平成31年3月31日までとする。

4 役割

- (1) 富津市民委員会委員（以下「委員」という。）
現総合戦略の進捗状況を踏まえ、2に掲げる事項について討議する。
- (2) コーディネーター（討議の進行役：富津市創生会議委員）
委員に対し、論点を提示するなど、討議の円滑な進行を行う。
- (3) 事務局（委員会全体の運営：企画課）

委員会全体の運営を担うとともに、委員会での討議結果を報告書として取りまとめ、富津市創生会議へ報告する。

5 討議の流れ

- (1) 討議に当たり、委員は、2つのグループに分かれる。
- (2) 事務局は各グループに対し、討議テーマ等について資料を用いて説明を行う（資料は、必要に応じて事前に委員に通知する。）。
- (3) コーディネーターからの論点提示をもとに、各グループで討議を行う。

6 意見の取扱いについて

委員会において出された意見は、事務局が報告書として取りまとめ、富津市創生会議へ報告するとともに、次期総合戦略策定に向けての素案作り及び富津市創生会議における議論において参考とする。

平成 30 年度富津市民委員会報告書

発行年月 平成 31 年 3 月

発 行 富津市

〒293-8506 富津市下飯野 2443 番地

Tel 0439-80-1223

ホームページアドレス

<http://www.city.futtsu.lg.jp/>

Eメールアドレス

info@city.futtsu.chiba.jp

編 集 富津市総務部企画課

